



東京全労協

沖縄平和行進 取り組む

日米安保粉砕！普天間基地即時撤去！辺野古新基地建設反対！ 高江ヘリパッド建設反対！オスプレイ配備撤回！軍事費を災害復興に！

今年、安倍政権が戦争へと前のめりになって、ひたすら「戦争国家」の道を進む状況のなかで、第37回5・15沖縄平和行進が実施をされました。東京全労協は、沖縄の現地学習会も兼ねた取り組みと位置づけ、全国一般東京労組の「沖縄へ行く実行委員会」の15名と共に、5月15日、19日の日程で大阪全労協青年部2名を含め22名を派遣しました。



フェンスに括り付けた檄布と参加者一同

米軍側がフェンスに括り付けた横断幕のぼり旗を刃物で切断するのを実力阻止しながら「基地撤去！米軍帰れ！オスプレイ帰れ！」と情宣行動を行いました。午後は平和行進責任者会議の後、全国結団式に参加し平和行進の成功を決意しました。

16日、派遣団37名は、辺野古新基地建設予定地で平和行進3コース合同による初めての出発集会に参加し、全体で200人が結集しました。集会後、米軍フェンスに「檄布」を括り付け、現地テント村に行き激励と海上視察を行いました。

17日、戦跡の学習・見学として、平和祈念堂で広報映画「南風原陸軍病院20年・資料館、仲良し地蔵へのお参り（宮森小学校）」などを視察し沖縄戦の学習を行いました。南風原では高校生がボランティア活動で当時の「ひめゆり学徒隊」の悲惨な現状を語り続けています。宮森小学校では石川・宮森630会の久高政治事務局

長から1956年6月30日に米軍ジェット戦闘機が宮森小学校に墜落炎上した事故の状況、現在に至るまでの活動経過など報告を受けました。

フジビは解雇を撤回せよ！

昨年9月に富士美術印刷（フジビ）の同族子会社フジ製版が破産し、全社員18名を即日解雇したことに始まる「フジビ闘争」は、1年半以上が経過しております。

フジビに対し、組合つぶしの糾弾と親会社の責任を追究し、解雇された組合員の雇用保障を求める要求に対し、フジビは「フジ製版は別会社」「フジビに責任はない」として、団交拒否・組合排除が続いています。またフジビはこの2月には、解雇当該3名個人に対し、抗議行動によって生じた損害賠償を請求する裁判を、フジビが起こしてきました。金も権力も持たない私たち労働者や一般市民が、企業や公権力の圧力に対抗し得る手段である大衆行動を、金と権力でねじ伏せ黙らせようとする恫喝訴訟です。「スラップ訴訟」と呼ばれ、最近権力側の手段として増えているようです。

しかし私たちの行動は、労働者の団結権、団体行動権に基づいた正当な権利の行使によるものであり、正当な争議行為です。

私たちは、本年1月に発足したフジビ闘争支援共同会議の団結の結集で攻撃を跳ね除け、3、4月の春闘期を闘い抜いてきました。二波に亘る社前座り込み行



闘いが共闘を拓いている！

動も、以前の3倍もの支援による参加を頂き、フジビ経営に対しても十分に共闘の団結力を示せたと思っています。

4月23日にはフジビの株主総会が行われましたが、フジビの筆頭株主である東京中小企業投資育成株式会社に対しては、今後抗議行動の焦点の一つと考えています。争議企業の筆頭株主に加え、東京都の出資を受ける公的企業であり、また監督官庁の経済産業省から元事務次官を社長として受け入れている天下り会社です。争議責任、社会的責任は免れ得ません。

6月17日に行われる東京総行動では、JR渋谷駅新南口にある投資育成会に対し、抗議の申し入れを行います。また、東京都労働委員会では証人への審問が始まり、6月16日には組合側第2回審問が行われます。各行動並びに支援共同会議へのご参加を含め、フジビ闘争への引き続いてのご支援を宜しくお願い申し上げます。

フジビ分会 小金井俊弥

第85回日比谷メーデー

7千名の結集で成功を勝ち取る!!

第85回日比谷メーデーは、5月1日に日比谷野外音楽堂で開催し、約7千名の参加で成功を勝ち取ってきました。

今年の式典議長は、高橋敏行さん（全水道東水労）と中島由美子さん（全国一般東京南部）が行いました。冒頭、議長団より震災被害者に対する黙祷が行われ式典が始まりました。

労働者と連帯する全国ネットワーク（トワーク）、争議関係から宝地戸百合子さん（JAL原告団）、反戦・平和運動から鎌田慧さん（戦争をさせない1000人委員会）、から訴えがありました。

アトラクションは「制服向上委員会」のライブで「ダツダツ脱原発」の歌や反戦・脱原発に関するトークが披露された。

今14春闘は、政府から賃上げ誘導を行う異例の構造



第85回日比谷メーデーには7000名の参加を勝ち取った!

となり、一部大企業でわずかな賃上げがされたものの、中小企業の改善にはつながらず、消費税の増税も加わって賃金格差は更に拡大しました。

日比谷メーデーでは、中小労組、非正規労働者、未組織労働者、外国人労働者等による怒りとすべての労働者の労働条件全般の改善、「首切り自由」を許さない闘いが課題となりました。

また、秘密保護法の強行や集団的自衛権の容認など「戦争をする」国に突き進む安倍首相の暴走を止める闘いとなりました。

今年も統一メーデーは実現せず、今日の「分裂メーデー」が固定化されています。もう一度労働者の一層幅広い結集と闘いの広場が求められていることはいうまでもありません。このことは、日常的・恒常的に課題別共闘などを通じながら訴えていくことが必要です。

引き続き、労働者全体の統一メーデーの実現に向けて奮闘しよう!!

職場から春闘を!

全労協全国一般東京労働組合

4月18日東京労組は第3波統一行動を取り組んだ。12時30分から開始した東伸社ユニオンの社前決起集会を皮切りに、セフテック分会、新聞輸送分会の3つの社前集会を約120名の仲間を集めて、午後半日にわたる統一行動として展開した。

東伸社は経営的に厳しい状況が続いていたが、それも徐々に脱しつつある。組合は雇用確保を最優先に財政再建に協力してきた。しかし会社は、組合が非正規雇用組合員の社員化を要求し続けているにも関わらず、組合に事前相談もなく（隠れて）非組の数名を社員化した。完全に組合に対する裏切り行為。不当労働行為である。現在、春闘決起集会の力を背景に団交を重ね、不当労働行為の責任を追及している。



セフテックでは、現・岡崎社長就任以降、労使関係

もちろん地域の仲間からも強い抗議の発言が続いた。新聞輸送は、新聞発行5社（朝日、読売、毎日、日経東京）が出資して作られた新聞輸送を専業とする運送会社だ。運送業界は規制緩和により運送単価の切り下げが大きく進み、低賃金、長時間労働が当たり前になっている。こうした中で、輸送部門の合理化を議論する親会社は、回り番で送り込んでいた社長を数年前から送り出しを止め、経営から一歩二歩と引く構えだ。株主であり仕事の発注元でもある新聞社は、新聞輸送株式会社の生殺と奪を握っており、新聞輸送が存続するかどうかは新聞社の決断一つ

が対話から力と力の対決へと大きく変わった。岡崎社長自身は団交に出席せず、出席している団交員らは空団交を繰り返すのみである。

今年2月の大雪で埼玉にある倉庫が雪の重みで屋根が崩壊した。幸い人的被害は免れたが、一歩間違えば大惨事となっていたらどうだろうか。

この倉庫の危険性について組合は早くから指摘してきたが、会社は聞き入れず、とせず放置してきた中で崩壊だった。組合敵視政策と労働者の命や労働安全を無視する会社に対して、集会では東京労組の仲間

井上眼科病院はもはや病院ではなくイジメ推進集団

ろくなことがまるでないと思わせたいのか、病院側が福井分会長自宅へ送り続けている嫌がらせの手紙は相変わらず続くが、残念ながら解雇後はろくなことばかりが続く、堂々とした人生を送っている。多少の事では動じない。その嫌がらせ手紙の差出人は弁護士から人事総務部長名に変わったが、そんな文章を考える暇があったら、病気で苦しんでいる患者さんのために時間を費やしたほうが良いはずだが、理事長をはじめとした経営陣は未だにそれに気づかない。

その周りの職員は、自分が苛められないためには、苛める側に回るといふ、もはや職場環境は荒れ放題の状態になってしまった。

優秀な医師等は多くが井上眼科病院から去ってしまい、日本を代表する某有名大学から招いていた看板教授は、不適切な金銭の授受でマスコミに騒がれてしまった。

病院側は、今自分たちがやってきたことに猛省をして、再出発をするチャンスである。

組合側が与えた「気づき」のチャンスは無駄にしてはいけない。今まで、何か上手く行かないことがあれば全て職員のせいにして減給し、経営陣は自分たちの手当を昇給させる。大声で言ってあげよう。恥を知れ!

裁判は第3回が終了した。なんとこの3回目で裁判長が解雇理由に疑問を抱いている発言があり、慌てふためく病院側弁護士は意味不明「とんちんかん」な回答をして傍聴席から失笑の声が漏れた。世間ではこんなことが通用しないということに勉強していただくとよるしいのだが、はたしてどうだろうか。



井上眼科病院経営陣よ! せっかくの気づきのチャンスを見逃さないでくれ!(福井 寿)

6・14米軍横田基地 反対集会・デモ

6月14日(土) 13:30集合
15:00デモ出発
場所 福生公園
青梅線牛浜駅下車 徒歩3分

新聞輸送分会は、毎年社前決起集会を開催し、同時に新聞社に対し定期的に申し入れやピラ撒きを行い、新聞輸送解体、雇用破壊に歯止めをかけてきている。今後も手を緩めることなく常に親会社を意識した闘いに取り組んでいく決意だ。